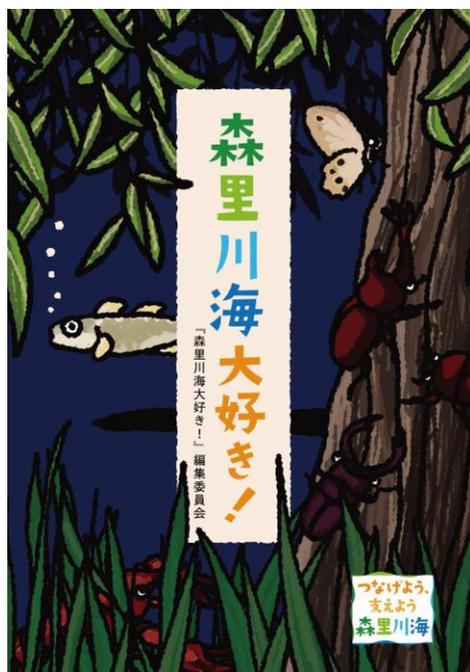


子どもたちが、ふたたび自然とつながるために
～読本『森里川海大好き！』活用ガイド～

2020年3月版



つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト
<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>



目次

このガイドについて	p 3
『森里川海大好き!』活用のヒント	p 4
(1) 小学校で読本を活用した事例	
①環境をテーマにした「総合的な学習の時間」での活動のきっかけづくりとして	
②読書の時間の図書として ③夏休みの読書感想文の課題図書として	
④道徳での活用について ⑤「副読本」や「資料」の一部として	
(2) 地域の環境学習施設と小学校が連携した「総合的な学習の時間」で 読本を活用した事例	p 7
①前提として大切なポイント ②学校と連携した環境学習実施のプロセス	
③読本をどのように活用したか ④読本を読んだ子どもたちの感想 ⑤連携と読本活用の効果	
⑥総合的な学習の時間の波及効果	
(3) 家庭やグループ活動での活用について	p 19
読本『森里川海大好き!』の構成と概要	p 20
・まえがき	
・メインストーリー	
・健康な「森と里と川と海」は、そしてそれらのつながりは、なぜ私たちにとって大切なのか	
・先生たちから子どもたちへ（編集委員によるコラム集）	
読本『森里川海大好き!』の入手方法について	p 22
自然体験はルールを守って安全に	p 23
「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」について	p 24

このガイドについて

子どもたちが、自然の中で遊び豊かな感性を育む姿は、一昔前は普通の光景でしたが、今ではそのような子ども自体が“絶滅危惧状態”となりつつあります。

環境省では、2014年に「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」と「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目標に「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトでは、活動の一つである「森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム」の中で、森里川海で元気に遊ぶ子どもたちをよみがえらせ、森里川海とともに生きる知恵を学ぶ機会を増やすことで、森里川海を将来の世代へつないでいくことを目指しています。

今回、その活動の一環として、子どもたちに森里川海のつながりの大切さや、自然体験の楽しさを伝える「読本『森里川海大好き！』」を制作しました。制作にあたっては、2016年度以降、有識者による編集委員会や教育関係者などのご協力を頂きながら2年間にわたり構成を検討した結果、読者の対象を小学校高学年から中学生とし、前半は児童文学作家の阿部夏丸さんによる自然体験をテーマにした物語、後半は編集委員の皆様のご専門分野を活かしたコラム集として構成しています。

本ガイドでは、読本を学校の授業や地域の活動において活用していただくために参考となる事例やヒントを紹介していきます。

すでに、全国の公立図書館へも配布していますので、様々な場面で読本『森里川海大好き！』のご活用をご検討いただけますと幸いです。

環境省「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトチーム

読本『森里川海大好き！』活用のヒント

自然を体験するというのは、本来は家庭や地域で行われるものでしたが、今は学校教育の中でもそういう機会を増やしつつあります。読本『森里川海大好き！』は、学校の「総合的な学習の時間」で自然環境をテーマとして扱う先生や、地域で子どもたちを対象に環境活動に取り組んでいる方々に、子どもが自然や自然体験に興味をもつための一つのきっかけとしてご活用いただきたいとの思いから生まれました。メインストーリーの『大発見は足もとに』を読んで冒険心をかきたてられ、森里川海でもっと遊んでみたいという気持ちが子どもたちの心の中に生まれてくるかもしれません。また「コラム森里川海」を読んでみて、もっと自然のことを知りたいという探求心が生まれてくるかもしれません。

ぜひ学校や地域の活動での活用をご検討ください。

多摩市立連光寺小学校の棚橋 乾校長先生は、こう話しています。「『総合的な学習の時間』は、子どもが自分たちで課題を見つけて取り組んでいく時間ですが、環境をテーマにして取り組んでいる学校はたくさんあります。その時に大事なのは、実際に現地に出て行って自分の目で見て、匂いを嗅いで、音を聞く。五感を使ってモノを感じることです。これをせず、座学だけでやってしまうと、後々何も残っていきません。体験した上で、みんなで協力して考える。それを繰り返していくことの大切さを学ぶことが、『総合的な学習の時間』では求められています。2020年から学習指導要領が新しくなり、『総合的な学習の時間』と各教科を結び付けた授業への取り組みが各学校で始まります。子どもたちの学びがより深まっていけばいいなと思っています。」

外で体験をして教室に戻って考えてみる、そんな授業に、ぜひこの読本を活用してみてください。

(1) 小学校で読本を活用した事例

読本『森里川海大好き!』を「総合的な学習の時間」や「読書の時間」でご活用いただいた事例を紹介します。

(取材協力：多摩市立連光寺小学校 校長 棚橋 乾 先生)

①環境をテーマにした総合的な学習の時間での活動のきっかけづくりとして

「総合的な学習の時間」(以下、総合)は学校によって取り組む内容が異なりますが、本校では4年生が、近くを流れる多摩川で魚や野鳥などの生物調査や、ゴミの調査を行っています。総合を中心に他の教科とも連携しながらこの取り組みを毎年行っていて、5年生は里山、6年生ではエネルギーをテーマにしています。

今回4年生は、あらかじめ国語の「話し合いをする」という単元で話し合いの練習をした上で、総合でどんなことに取り組むのかみんなで話し合いました。

総合は一人ひとりが自分でテーマを考えて取り組む授業ですから、まずは子どもたちに川の生きものに関心を持ってもらおうという趣旨で、子どもたちの動機づけとして1学期の早い時期に読本を読んでもらいました。

②読書の時間の図書として

週2回、朝読書の時間があり、読みたい本を自宅から持ってきたり図書館から借りて本を読みますが、今回は1学期の終わりごろに4年生に読本を見せて「読んでごらん」と呼びかけてみました。担任の先生にも、楽しく読んでいただけたようでした。朝読書の時間は限られていますが、4年生全員に読本を配布できたので、続きは家に帰って読んだようです。

③夏休みの読書感想文の課題として

4年生の夏休みの宿題として読本『森里川海大好き！』を課題図書にした読書感想文を書いてもらうことにしました。

④道徳での活用について

また、各学年の道徳には「自然を大切に」「自然に対する畏敬の念」といった要素があり、そのことについての理解を深める本としても活用できると思います。

「副読本」や「資料」の一部としての活用について

(情報提供：元小学校教諭 阿部麻里さん)

読本『森里川海大好き！』は学習指導要領に即して作成されたものではありませんが、副読本や資料の一部としてご活用いただいた学校もあります。以下に活用の可能性のある単元を例示しました。

以下はその一例です。

- 6先生 理科「生物のくらしと環境」 学校図書
- 6年生 国語「森へ」「自然に学ぶくらし」「海の命」 光村図書
- 5年生 理科「魚のたんじょう」 学校図書
- 4年生 国語「ウナギの謎を追って」 光村図書 ★特におすすめ！
- 4年生 理科「暑いきせつ」 学校図書
- 3年生 理科「こん虫をしらべよう」 学校図書

また、読書の時間の他に、給食の時の読み聞かせの本としても活用することで、子どもたちがより自然に興味を持つことができるでしょう。

(2) 地域の環境学習施設と小学校が連携した総合的な学習の時間で読本を活用した事例

小学4年生の総合的な学習の時間において、地域の環境学習施設が小学校と連携して実施した環境学習活動について、愛知県安城市の「柿田公園管理事務所エコきち」と安城市立安城西部小学校が連携して実現した、川の環境と生きものについて学ぶ総合的な学習の時間の事例を紹介します。なお、本事例の「地域の環境学習施設」を「市民による環境学習グループ」と読み替えることで、施設を持たない地域の市民団体にも、学校と連携して環境学習を実施する際の参考になります。

取材協力：NPO 法人地球温暖化対策地域協議会 柿田公園管理事務所エコきち
安城市立安城西部小学校

①前提として大切なポイント

こうした取り組みを実現させるには、まずは前提として、学校や自治体と地域の環境学習施設や団体間の相互認知やネットワークの存在が重要で、今回の事例は、市の担当者が学校から問い合わせが入った際に「エコきち」とつないでくれたことが発端になりました。

- ・「総合的な学習の時間」等において、環境をテーマにした年間計画を策定している（しようとしている）学校がある。
- ・学校や市の環境部署が、子ども向けの環境学習を実施している環境学習施設や市民団体等を認知している。
- ・学校から市に相談が入った場合には、担当者が地域の施設や団体につないでくれるようなネットワークがある。
- ・施設や団体に、地元の自然や生物などをよく把握し、「子ども向けに」環境に関わるお話や指導できるスタッフが存在する。

②学校と連携した環境学習実施のプロセス

上記の前提のもと、「柿田公園管理事務所エコきち」(以下「エコきち」)では、アウトリーチ事業(出前授業)を実施している河川部会の方が講師役として、小学校と連携して環境学習を実施しました。そのプロセスを整理すると下記のようになります。

Step1 学校との綿密な打ち合わせ

まずは学校の年間指導計画に基づいて、現場での指導を依頼された講師は、先生方から説明を受けて一緒によく理解する。その上で、どのタイミングで、どの場所でどんな活動をするかを決める。その際、読本『森里川海大好き!』を読むタイミングも検討する。

(図は、総合的な学習の時間の年間計画の例(部分)。各教科との連携と、体験学習の手法が重視されています。)

4年生総合的な学習の時間(わくわく)年間指導計画「地いきのかんきょう調べ」(55時間完了) 【総合的な学習の時間全70時間(総合的な学習の時間55時間)(外国語活動15時間)】	
1. 単元の目標	
<ul style="list-style-type: none"> 身近な川や自然環境について興味をもち、どのような生物が生息しているか調べたり、自然環境を守るために課題を見つけたることができる。(知識・理解) 身近な川や自然環境とのかかわりから、その現状について考えを深めたり、自然環境をよりよくなるための課題を追究したりすることができる。(思考力・判断力・表現力) 自分の活動を振り返ることで、自己有用感を高めたり、自然環境を守っていく大切さについて考えたりして、これからの生活に生かそうとすることができる。(学びに向かう力・人間性等) 	
2. 指導計画(55時間完了)	
学 習 活 動	教師の支援 ☆他教科との関連
環境について知っていることを語り合おう。1(知識・理解) <ul style="list-style-type: none"> 水や空気のきれいな生き物の住みやすさのことで。 赤松町にも川が流れています。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の時の学区探検での経験も思い出すように助言する。
ホタルの幼虫をもって放流しよう。2~5(知識・理解) <ul style="list-style-type: none"> ホタルの幼虫を初めて見ました。 へイケホタルは田んぼにいることが分かりました。 放流したホタルを守るプロジェクトを立ち上げたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域でホタルを育てる活動をしている方に協力していただく。 ☆メモの取り方を工夫して聞こう【国語科】 ☆季節と生き物【夏】【理科】
ホタルを守るうプロジェクトを進めよう。6~12(思考力・判断力・表現力) <ul style="list-style-type: none"> チラシを作ったり、看板やタフロップを張ったり、パトロールをしたりして、全校のみんなにビオトープに入らないように呼びかけよう。 ホタルの敵であるザリガニを駆除しよう。 学校朝の会でもプロジェクトについて呼びかけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆小グループに分かれて活動することで、主体的にプロジェクトに関わることができるようにする。 ホタルを守るためのプロジェクトになっているか時々ふり返る活動を取り入れる。 ☆みんなで新聞を作ろう【国語科】
ホタルを守ろうプロジェクトを振り返ろう。13(学びに向かう人間性) <ul style="list-style-type: none"> 教頭先生から夜寝なくなったホタルが飛んでいたと聞き、プロジェクトが成功してよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> 夜のビオトープの様子を児童に報告することで、プロジェクトが成功したかどうか分かるようにする。
学区の川について知っていることを語り合おう。14(知識・理解) <ul style="list-style-type: none"> 長田川と半場川があります。 半場川は草が生い茂ってそうです。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの生活の経験から思い出すように助言したり、半場川になじみのない児童のためにインターネットで地図や航空写真などを見せたりする。
半場川に行ってみよう。15~19(見学・調査)(知識・理解) <ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の生き物がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆安全の確保と生き物の指導のため、エコネットあじょうの方々には協力していただく。
半場川に行ってみつけたことをしようかいしよう。20(知識・理解) <ul style="list-style-type: none"> いろいろな生き物がいました。 結構ごみも落ちていました。 水はにごっていました。 植物がたくさんはえていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆後で生き物や植物を正確に調べられるように、タブレットで写真を撮る。 ☆季節と生き物(夏の終わり)【理科】 ☆生き物、植物、ごみ、水質などに分類して板書することで、半場川には様々な側面があることに気付けるようにする。
半場川はどんな川か、語り合おう。21【本時】(思考力・判断力・表現力) <ul style="list-style-type: none"> 半場川は植物がたくさん生えていて、生き物がたくさんいてきれいな川だと思っていたけど、みんなの意見を聞いて汚いかなと思ったので、実際に調べたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆水質に話があんだ時に、きれいと感じた児童と汚いと感じた児童の理由を明確にすることで、次時につなげられるようにする。

Step2 役割分担の調整

学校の先生と、実施する際の役割や準備物の分担などを決めておく。

Step3 実際にプログラムを体験してみる

施設や団体が実施するプログラムに、学校の先生方に実際に参加してもらう機会を設ける。その上で、実施するプログラムや役割分担を調整する。

Step4 実施するプログラムをもとに下見を行う

安全管理や熱中症対策を踏まえて、実施場所の下見を行い、プログラムに反映させる。

Step5 動機づけとして読本を読む機会をつくる

読み聞かせや読書の時間などを活用して、『森里川海大好き！』を児童に読んでもらう機会をつくる。（次項参照）

Step6 プログラムの実施

いよいよ本番。安全管理と熱中症対策のもと、無理せず楽しく環境学習。気温が高い、天候が悪い日などは、迷わず延期や中止も検討する。

Step7 ふりかえりとまとめ

全体の流れとしては、下記3つが大きな要素

- ①読本を活用した「動機づけ」と「事前学習」
- ②現場での「体験学習」の体験
- ③体験学習後の「ふりかえり」

半場川での環境学習の様子

実施部会名	エコネットあんじょう河川部会
事業名	「安城西部小学校・半場川を知ろう！」
開催日時	令和元年9月24日午前9時～午前10時
開催場所	デンパーク北側の半場川河川敷
参加者数	安城西部小学校115名（先生5名）・スタッフ8名 合計123名

ねらい：安城西部小学校の総合的な学習の時間「半場川を知ろう」での川の環境、魚の生態等の観察応援

実施内容：当初、9月10日の予定であったが、暑さ指数を超えたため急遽中止し、改めて9月24日に変更する。9:00より講師（エコネットあんじょう）より、自己紹介、半場川の様子、魚の生態、魚の捕まえ方等を見学の子供の皆さんに説明後、全員が川に入り魚を捕まえ、ヤゴ、カダヤシ、エビ、メダカ、タナゴ等15種類を捕まえた。

事業実施による効果：

〈寄せられた感想〉

- ・天気を心配していたが、熱中症等問題なく大変楽しい授業だった。
- ・川の環境、魚の生態が、川に入ることが出来大変役に立った。
- ・沢山の生き物がタモですくえ、普段見たことのない生き物を見ることができた。

〈成果〉

- ・短時間ではあったが、児童にとって貴重な実体験を積むことができた。その結果、絶滅危惧種を含む多くの生き物が棲んでいることが分かるとても重要な学習であった。



河原に集合した4年生の児童は、最初にエコネットあんじょうの講師から、学習の目的と実施内容と、活動時に注意することについて説明を受け後、グループごとに網やバケツを持って、生物調査を開始。捕まえた生き物は水槽に集めて、みんなでどんな生きものがあるかを調査した。

小学校でのふりかえり授業

実施部会名	エコネットあんじょう河川部会
事業名	「安城西部小学校・半場川を知ろう！」出前授業
開催日時	令和元年10月8日午前9時～午前10時20分
開催場所	西部小学校視聴覚教室
参加者数	安城西部小学校110名（先生6名）・スタッフ3名 合計113名

ねらい：安城西部小学校の総合的な学習の時間「半場川を知ろう」での川の環境、魚の生態等の観察応援

実施内容：講師の話聞き、半場川や矢作川の元をたどったり、明治用水の歴史に触れたりしながら、児童たちは、半場川の生き物や在来種、外来種について話を聞き、川、魚についての質問をして、川の状況、魚の生態等を理解していた。また、今後は、川の水質等も機会があれば調査をしてみたいとの声も出ていた。

事業実施による効果

《寄せられた感想》

- ・安城西部小学校の周辺の昔と今の環境について詳しく聴き、大変役に立った。
- ・きれいな川、汚い川に生息する魚の説明があり、魚の生態がよく分かった。
- ・これからは、川の魚と、川の周りのいる昆虫にも気を付けて観察したい。

《成果》

児童たちは、普段川で魚を捕まえる機会が少ないので、今回の経験で川についての興味を持ってもらえた。



小学校の視聴覚室で、先日の半場川での調査で見つけた生き物の生態や、在来種か外来種などについて、講師に質問する児童たち。今度は水質も調べてみたいとの意見も出た。



まとめとして最後に、何を学んだか、どんなことを感じたか、作文や絵で表現して、みんなでわかちあうことが大切です。この事例では、一人一人がプチ新聞を作成して、グループごとにわかちあいました。





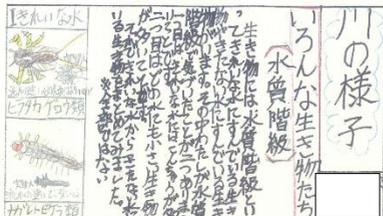
かんきょう新聞
 かんきょう新聞は、環境問題について、最新の情報を提供し、読者の意識を高めることを目的としています。また、環境保護のための具体的な行動を促す役割も果たしています。



ウナギ
 ウナギは、日本を代表する高級食材の一つです。しかし、過度な乱獲により、資源が急速に減少しています。持続可能な漁獲方法の確立と、消費者の意識向上が求められています。



感想
 この絵は、川と人間の生活の密着した関係を表現しています。川は単なる水の通り道ではなく、地域社会の中心であり、人々の生活を支えている重要な存在です。



川の様子
 水質階級は、川の生態系に与える影響を評価するための指標です。きれいな水は多様な生物を育み、汚れた水は生態系を破壊します。

半場川の生き物
 半場川には、サケ、マス、ウナギ、ナマズ、フナ、イナダ、アサギ、コイ、ニギハヤヒ、シロギス、フナ、ウナギ、ナマズ、フナ、イナダ、アサギ、コイ、ニギハヤヒ、シロギスなどの生き物が住んでいます。

あくわく新聞
 半場川には、サケ、マス、ウナギ、ナマズ、フナ、イナダ、アサギ、コイ、ニギハヤヒ、シロギスなどの生き物が住んでいます。



おどろきゴキナリ
 おながりとは、川に生息する魚類の一種です。その生態や生活環境について詳しく学びたいと思います。

川や川にいる生き物を大七にしよう
 ①川にゴミをすてない
 ②生き物にやさしくする

③読本『森里川海大好き！』をどのように活用したか

実際にプログラムを実施する前に、読本を児童に読んでもらうために、学校の先生方はやりくりして下記のような工夫をしてくれました。

- ・教室での読み聞かせにより、川や生き物に興味を持たせた。
- ・教室での集団読書をする時間を作り、児童が自分たちでテーマを考える総合的な学習の時間へ発展する糸口とした。
- ・強い興味を持った児童やもっと読みたいという児童のために、自宅でも読めるように貸し出した。
- ・授業中に読み切れなかった児童のために『森里川海大好き！』を長く教室において自由に読めるようにしたところ、担任の先生から、休み時間に読んでいる児童が多くいたとのことでした。



④読本を読んだ児童たちの感想

事前に『森里川海大好き!』を読む機会を与えたことで、生き物や環境に関心を持つようになり、その後の総合的な学習の時間に良い影響を与えたり、児童の意欲が高まったりした様子を担任の先生方は感じたそうです。

学習のふり返しとして、児童が各自でつくる新聞（タイトルは「川新聞」「かんきょう新聞」など様々。P15 参照）では、次のように児童たちが述べています。

「本を読んで思ったことが二つあります。一つは、生きものについてくわしくなりたくなったことです。この本は自然や生き物のことがたくさん書いてあったからです。もう一つは、自然をもっと大切にしたいということです。この本はぜつめつきぐ種の生き物がたくさんのもっていたので、その生き物をぜつめつから守りたいと思ったからです。」

「わたしは、魚や生き物の種類がこんなにあることを知りませんでした。(略) また、川がどれぐらいにごっているのか、きれいになっているのか調べたいと思いました。」

「この本は主人公のヒロキと不登校のユウヤが二人でおばけ池の中にいるウナギをつるお話です。とても勉強になり、おもしろい本です。ぜひ。この『森里川海大好き!』という本を読んでみてください。」

⑤連携と読本活用の効果

この事例では、環境学習施設から小学校の総合的な学習の時間に講師を派遣したことで、児童の興味をより高めることができ、また、担任の先生と講師が打ち合わせを重ねていくうちに、先生方の知識・理解度が高まり指導方法が充実したなどの成果があったそうです。

また、読本『森里川海大好き！』を児童一人一人に読ませたことで、授業の下地となる興味・関心を高めることができ、児童の感想にもあるように、4年生児童にとって興味深い内容であるため、読む機会さえ与えれば読本を自ら読み進み、学習効果も高くなったとのことでした。

⑥総合的な学習の時間の波及効果

川での環境学習を通して、川の環境についての意識を高めた児童が、その後に開催された川のクリーン活動に自主的に参加していることがわかりました。児童の自発的な行動は、学校での環境学習によって掘り起こされたものと思われ、環境学習の計画や準備、指導に力を注いだ担任の先生方の努力のたまものであると思われます。

「わたしは、半場川クリーン大作戦に行きました。(略)クリーン大作戦では、かんのゴミやプラスチックやペットボトルなどが、落ちていました。ゴミを分別したあとは、お話を聞きました。(略)」(児童の日記から)

以上、愛知県安城市での取り組み事例の概略を紹介しましたが、ぜひ皆様の地域での環境学習におかれましても、児童が自然体験や環境に興味をもつきっかけづくりとして、読本『森里川海大好き！』をご活用いただければ幸いです。

(3) 家庭やグループ活動での活用について

家庭やグループ活動で環境教育や自然体験に取り組んでいる方には、自然体験の経験が少ない子どもに興味を持ってもらうきっかけとして、読本を活用してみてもいいでしょうか。

また、子育て世代の親の自然体験が不足していると言われていたもので、子どもに限らず親子で読本を読んで、親子で一緒に自然体験する機会も増やしていきましょう。

読本で自然に興味を持ってもらえたら、その後に自然の中で楽しい体験をする流れが大切です。読んだ後にフィールドワークに出かけるようなプログラムを考えてみましょう。読本を読むことと実際の自然体験が結びつくように、いろいろと工夫してみてください。

例えば、読本を読んで感想文を書いたり、内容について話し合ってみたりすることに加えて、身近な自然の写真を撮ったり、絵に描いてみることで、さらに自然を身近に感じられるようになるかもしれません。

また、物語に出てくる生きものに焦点をあてて、いろいろ調べてみることもできるでしょう。

自然体験は、特に子どもの成長にとってとても大切であることが知られています。国立青少年教育機構の調査では「外遊びが多い小学生や中学生ほど規範意識やチャレンジする力が高い傾向にある」「子どもの頃に友達との遊びや自然体験が多かった大人ほど、資質や能力が高い傾向にある」といったことが判明しています。

どうぞ、できることから試してみてください。

（『森里川海大好き！』p122 「おとなの皆さんへ かわいい子には体験を！ 子ども頃の体験は人生の基盤」をご覧ください）

読本『森里川海大好き！』の構成と概要

まえがき 「私たちは森里川海でできている」 養老 孟司 氏 p2

「いまの自分の体を流れている血は、あっちの川やこっちの川から来た水ですからね。“自然”に親しんでいないと、なかなかそうは思えないのです。(中略)世界と君たちはしっかりつながっています」という編集委員長からのメッセージです。

メインストーリー 「大発見は足もとに」 阿部 夏丸 氏 p7

「みどりが丘団地のおばけ池には、夜な夜なおばけが出るらしい」。とはじまる男の子ふたりの冒険物語。おばけ池で二人が出会う生き物たちは、挿絵と解説があるので、知識を得ることもできます。おばけ池の正体は？大ウナギはどうやったら釣れるのか？読んだあとは、誰かに話したくなる、自分も川で遊びたくなる物語です。

健康な「森と里と川と海」は、そしてそれらのつながりは、 なぜ私たちにとって大切なのか？

小林 朋道 氏 p86

モモンガなどの野生生物の調査のために、標高が 800 メートルほどの森の中に、学生たちと出かけた小林先生。森の中央、くぼんで下に小石がびっしり並んでいる水たまりで、アカハライモリを発見。しばらく進むとモリアオガエル、ジムグリ等々。生き物たちと出会いながら、この環境があるからこそ人類は生きているということ、野外調査の体験を通して説明しています。

先生たちから子どもたちへ（編集委員会委員によるコラム集） p95

編集委員の専門性を活かした、森里川海にまつわるコラム集。中学生向きですが、小学校高学年でも興味のある子どもには読んでいただける内容です。

森:日本は「森林（もり）の国」 竹内 典之 氏

里:伝説の巨人「ダイダラボッチ」と里山の子どもたちの暮らし 辻 英之 氏

川:日本にはたくさんの川がある 天野 礼子 氏

海:陸に上がった魚は、今 田中 克 氏

体験:自然体験は、どうして子どもに必要なのか 小林 朋道 氏

生き物:ウナギとザリガニが教えてくれること 奥田 直久 氏

大人の皆さんへ かわいい子には体験を！

p112

子どもの体験活動実態に関する調査研究及び、子どもの頃の経験がその後の人生に影響を及ぼすといった調査を用いながら、子どもたちの遊び場の減少等、環境が変化している中で、大人たちがやるべきこと、考えるべきことを提唱しています。

子どもの頃の体験は人生の基盤 山本 裕一 氏

大人の皆さまにお伝えしたいこと 千田 純子 氏

読本『森里川海大好き！』の入手方法について

この読本は、全国の小学校と公立図書館に所蔵されています。

また、学校の授業や地域の環境活動や読書活動などでご活用いただける場合には、在庫がある限り無料で貸し出します。

（ただし、送料はご負担ください。原則として、宅配便の着払いでお送りします。）

件名を「読本『森里川海大好き』貸出希望」とし「お申込者ご氏名」「学校名・団体名」「メールアドレス」「電話番号」「FAX 番号」「送付先住所」「受け取り希望日と時間帯」「希望部数」「貸出希望期間（○月○日～○月○日）」「活用方法(概略)」を記入した用紙（書式自由）を、FAXでお送りいただければ、送付可能かどうかご連絡致します。

なお読本をどのようにご活用いただいたかにつきましては、後日に簡単なレポートをご提出ください。他の学校や団体等にも共有させて頂きますので、ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

* F A Xの送付先番号（読本の発送を担当している事務局）につきましては、お手数ですが下記までお問い合わせください。

環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室
読本『森里川海大好き！』係 03-5521-9108

読本『森里川海大好き！』は、環境省「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」ホームページ内、下記にて、ダウンロードできます。

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/dokuhon.html>

自然体験はルールを守って安全に

自然体験には様々な発見やワクワクドキドキがありますが、安全には十分に配慮する必要があります。読本を読んで森里川海で自然体験を試みたくなったという子どもたちには、ルールを守って安全に活動するような呼びかけと対応を、ぜひお願いします。

○学校のきまりを守る

山野や水辺に出かけるときは、必ず「学校のきまりを守って」出かけるように子どもたちにお伝えください。特に川などの水辺には「子どもだけでは絶対に出かけないように」と学校でルールが決められている場合があります。水辺に行くときは必ず先生に相談するようにお伝えください。

○大人と一緒に出かける

さらに出かけるときには保護者に相談して、必ず大人と一緒に出かけるように伝えてください。

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトについて

私たちのくらしは、森・里・川・海のつながりが生み出した自然の恵みによって支えられています。しかし、そのつながりが急速に失われてきている今、災害の激甚化や資源の枯渇等の問題が生じてきています。本プロジェクトでは、これらの問題を解決していくため、「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す」とことと「一人一人が森里川海の恵みを支える社会をつくる」ことを大きな目標としています。

* プロジェクトサイトはこちら

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>

様々な取り組みやイベントを紹介しています。

